

出演民俗芸能の紹介

おおもりしんざん し し だいごんげんまい

大森親山獅子大権現舞（尾去沢地区） 一県指定無形民俗文化財一

尾去沢鉾山発見伝説に因む「大森親山獅子大権現御伝記」に由来するもので、文明 13(1481) 年頃から続いている神楽と伝わる。尾去八幡神社祭礼の 5 月 5 日と 9 月 15 日に社殿と境内で行われる。

装束は白衣、白袴、烏帽子、採りものは剣、扇、錫杖、手桶、ひしゃく、幣束など、楽器はほら貝、太鼓、手平鉦、横笛である。舞は「素舞」「本舞」「米汲みの舞」の 3 部に分かれており、特に「米汲みの舞」は、獅子頭が旧暦元旦に若水を汲んで飲むというもので、伊勢神楽に通ずる県内他地域に見られない特異な舞である。

◇ 開催 ◇ 尾去八幡神社（5 月 5 日・9 月 15 日）◇

ぶしかなやまおど

からめ節金山踊り（尾去沢地区） 一市指定無形民俗文化財一

鹿角が発祥の地といわれている「からめ節金山踊り」は、鉾山とともに伝承された、鉾山に働いた坑夫や手選婦の仕事の中から生まれた作業唄と踊りの芸能である。「金山踊り」は「からめ節」の七七七五調の曲調に合わせて、小道具にザルと槌を使い、鉾石を選鉾する所作を振付した踊りである。戦中戦後や鉾山閉山など伝承が途絶えそうになった時期もあるが、現在は尾去沢からめ節保存会が、5 月 14 日・15 日の 2 日間行われる尾去沢山神社祭典での奉納や地区小学校等での指導など保存・伝承活動に力を入れている。

◇ 開催 ◇ 尾去沢市民センター（5 月 14 日・15 日）◇

みずさわぼんおど たいこ

水沢盆踊り太鼓（八幡平地区） 一市指定無形民俗文化財一

明治期に盆踊り行事として安代（現岩手県八幡平市）～二戸～三戸郡から伝わったとされ、毎年 8 月 14 日の地区の盆踊りで行われている。

演目は「大の坂」「甚句」「二つ甚句」「三戸」「よされ」の 5 曲がある。最大の特徴は、『舞打太鼓』といわれる演奏法で、一人で太鼓を担ぎ踊りながら叩き、「二つ甚句」「三戸」「よされ」は太鼓の縁も叩いて演奏する。鹿角の他地域の太太鼓の演目では見られない演奏技法である。

◇ 開催 ◇ 水沢自治会館（8 月 14 日）◇

特 別 出 演

ご だい し し まい

五代獅子舞（青森県弘前市） 一市指定無形民俗文化財一

明応元(1492)年に津軽氏の先祖大浦光信が西津軽郡鰺ヶ沢に赤石城を築城した際、京都に由来した獅子舞を城内の厄払い、悪霊払いの舞として奉納したとされ、五代地区の稻荷神社境内に「獅子魂碑」があり由来が刻まれている。

獅子舞は鹿獅子の系統に属し、舞は雄獅子、中獅子、雌獅子のほかオカシコで構成され、囃子方は笛、太鼓、手平鉦、謡方で構成される。演目は 11 曲あり、「山掛けの舞」では獅子頭をはずして舞うなど独特の所作が伝わる。

五代獅子舞保存会では、後継者育成のため月 2、3 回、子どもたちへの稽古など精力的に活動をしている。

◇ 開催 ◇ 弘前市五代地区稻荷神社（10 月 10 日）◇

さわだ けいまい

沢田鶏舞（青森県十和田市） 一市指定無形民俗文化財一

鶏舞はお盆の期間に先祖・精霊供養のために踊られる念仏踊りの一種であり、沢田鶏舞は江戸時代末期に五戸町切谷内からおいらせ町下田本村に伝えられたものが、明治 20 年代に沢田の水尻住民に伝えられたといわれている。

鶏舞は笛・太鼓・手平鉦の音色に合わせ、タイシカン 1 人、シケンバイ 2 人、トリッコ数人が作り物のシダレヤナギを囲んで輪になって踊り、演目は「通り」「庭打ち」「ヒキハ」など 16 曲ある。

小学校と協力し平成 2 年から沢田っ子鶏舞を設立し、4～6 年生への継承活動を精力的に行っている。

◇ 開催 ◇ 沢田八幡神社（9 月 15 日）◇